

銭 函 考 (2)

銭函のこれからであるが、現代は地球温暖化で北海道で旨い米・サツマイモが生産され、海水温が上昇しているので、鯖等温暖で獲れる魚種が漁獲されている。この石狩平野の南端部の手稲・銭函地区が150年の開拓時から大きく変わらず、海岸線を含む原初の状況を保っているのである。そこでこの地で、北海道の冬季の厄介ものである積雪を利用するのである。

IT産業の国家的プロジェクトとしてコンピューターサーバーの集積設置、積雪の集積管理、本来なら原子力発電所なのだが、すでにあるのでこれではなくて、ソフト産業である、魚類の養殖施設をこの温水を利用して設置するのである。ここは、地下水が豊富であって、海に面している平地である自然条件がそろっているのである。今から、50年前、北海道大学でうなぎの人工孵化に世界で初めて成功していることから、大学とコラボしてここにうなぎの完全養殖をする養鰻池の事業化を目指すことは夢のある話ではないのか。

もちろん、ここ石狩は昔から、自然産卵でサケマスは潤沢にあったところであるので、この各地で行われている養殖は可能である。

石狩湾は、北向きで常時北風が吹くところである。湾口から50キロメートルの奥に銭函があって、フロート型洋上風力発電には適していると思われる。

この支援施設の設置には、銭函工業地区がまさしく今になってその存在を発揮するのである。

雪、風を利用した銭函版SDGsの完成である。